



研究者名※	佐藤 海帆 SATO Miho	学位※	博士(学術)
所属※	家政学部 家政経済学科	職名※	助教
連絡先	satomih@fc.jwu.ac.jp		
URL			
researchmap※	https://researchmap.jp/ 7000022603		
研究分野※	複合領域/生活科学/家政・生活学一般		
研究キーワード※	生活経営		
共同研究・競争的資金等の研究課題	福島原発事故下での幼児の遊び環境回復に向けた社会的支援モデルの構築(科学研究費・特別研究員奨励費・研究代表者、2015～2017) 災害に強い生活協働モデルの構築－福島原発事故後の幼児の遊び環境回復研究を基に－(科学研究費・若手研究・研究代表者、2019～2023)		
社会貢献・産学官連携活動等	アウトリーチ活動 佐藤海帆「震災後のいわき市の幼児の遊び環境の現状と屋内遊び場の充実に向けた課題－子育て家庭の視点から－」陸前高田市モビリア仮設図書館(2015) 佐藤海帆「震災後のいわき市の幼児の遊び環境の現状と屋内遊び場の充実に向けた課題－子育て家庭の視点から－」帝京大学(2015)		
受賞歴	2012年度日本女子大学学業成績優秀賞・研究奨励賞		

研究領域	生活経営	(SDGs)	 
研究テーマ※	災害に強い生活協働モデルの構築－福島原発事故後の幼児の遊び環境回復研究を基に－		
概要※ (概ね1000字以内) (写真・グラフ等自由)	<p>【研究の背景・目的・内容】 私たちの生活は、震災や新型コロナウイルス感染症(COVID-19)等のさまざまな危機とそのリスクに直面している。本研究は、人間生活を、家庭と社会の関わりから探求する家政学の視点から、災害に強い生活協働モデルを構築することを目的としている。具体的には、緊急的な状況にありながら支援を受けづらい被災弱者(子ども・高齢者・障がい者とそのケアラー)への適切な支援を創り出すために、平常時においても当事者が主体となり、社会的な支援にアクセスできるシステムを構築する。特に、福島原発事故後の幼児の遊び環境回復に着目し、生活と社会をつなぐうえで必要なエンパワメントの可能性を探る。</p> <p>【応用例、研究の展望】 本研究から得られる知見は、福島県のみならず全世界で起こりうる様々な災害から、緊急時には生命や生活資源(インフラ、情報の正確さなど)を守り、中期的には復興の過程の支えとなり、さらに長期的には被災地に限定することなく日常の生活をより豊かなものにするため、災害に強い生活協働モデルの構築に寄与する。</p> <p>【研究方法の特色】 震災後の福島の子どもの遊び環境に関する資料を幅広く収集し、分析している。特に、福島県の幼稚園や保育園に通う子どもの保護者延べ約8,000名への調査を行い、自治体やNPOとの情報共有を行っている。</p>		
本研究関連特許・論文等	<ul style="list-style-type: none"> ・佐藤海帆、「福島原発事故前と1年半後の幼児の屋外遊び環境の変化および生活への影響」、『日本家政学会誌』p.21-32、2016年 ・佐藤海帆、「福島原発事故前と1年半後の幼児の屋内遊び環境の変化および遊び環境の充実に向けた課題」、『こども環境学研究』p.53-62、2016年 		

